

豊かで 住みよい 町づくり

上勝



2013



VoL.

50

議会だより

2013. 8. 1 発行

臨時議会

6月 定例会

2P 25年度補正予算

4P 一般質問

7名が町政について質問

11P 委員会報告

12P まちのようす



第2回臨時議会

会期 1日
平成25年5月21日

専決とは：議会を招集する時間がない場合などに町長が単独で議事処理すること（地方自治法第百七十九条より）

第3回定例会

会期 15日
開会 平成25年6月12日
閉会 平成25年6月26日

条例改正（専決）

上勝町税条例の一部改正及び
国民健康保険税の一部改正
全員異議なく承認

補正予算（専決）

平成24年度一般会計補正
予算（補正第7号）
追加 1億4,684万
4千円
総額 31億2,687万円
全員異議なく承認

平成24年度一般会計補正
予算（補正第8号）
追加 576万5千円
31億3,263万
5千円
総額 26億4,300万円
全員異議なく承認

平成25年度一般会計補正
予算（補正第1号）
追加 3,700万円
総額 26億4,300万円
全員異議なく承認

質疑討論の結果6対1で
承認

平成25年度介護保険特別
会計補正予算（補正第1号）
追加 50万円
総額 3億5,020万
6千円
全員異議なく承認

全員異議なく承認

●徳島県後期高齢者
医療広域連合議員
に花本町長を選任
しました。

●任期 平成25年5月21日より
平成29年4月24日まで

監査委員の選任に
同意しました。

●任期 平成25年5月25日より
平成29年5月24日まで



正木 章氏
美木 氏

主な討論

第2回25年度臨時議会
一般会計補正予算

反対 明本議員

3セクや銀行の業務をする
ための人に、臨時職員として
賃金を払うのは納得できない。

賛成 片山議員

3セクのこともしらなければ
ば管理監督もできないという
ことで、行政側も人が必要。

賛成 渡部議員

前回は反対したが、今回は
町長も替わりこの半年で3セ
クの行方に結論を出すことを
期待し賛成する。

賛成 武市議員

3セクも大きな山場を迎え
ている。6ヶ月間ということ
で賛成する。

賛成 松下議員

この予算の中で本当に農業
体験を通じ、長く上勝に残ら
れる方の養成を望み賛成する。
採決の結果6対1で承認

主な議題

平成24年度一般会計繰越明
許費繰越計算書（専決）

国の予算配当が遅くなり事
業消化できなく、3億464万
6千円を繰越した。

質疑の結果 全員異議なく
承認

インフルエンザ等対策本部
条例の制定
新型インフルエンザ等対策
措置法に準用する規定に基
づき制定

全員異議なく可決

平成25年度一般会計補正
予算（補正第2号）
質疑討論の結果6対1で
可決

平成25年度介護保険特別
会計補正予算（補正第2号）
全員異議なく可決

奨学資金特別会計補正予算
（補正第1号）
全員異議なく可決

平成25年度後期高齢者医療
事業特別会計補正予算（補
正第1号）
全員異議なく可決

福原財産区特別会計補正
予算（補正第1号）
全員異議なく可決

第3セクター5社と土地開
発公社の経営状況の報告を
受けた。3セクの黒字決算
はウインズ1社のみ、4社
は赤字決算である。

発議

核兵器全面禁止条約の締結
に関する意見書

原案通り可決

寄附の申し立て 3件

主な質疑

第3回定例会

一般会計補正予算

岩本議員

地職住に600万円の
委託料が計上されて
いる。内容は。

桑原企画環境課長
兼産業課長

サステナブルア
カデミー（持続可能
社会を実現するため
の人材育成機関）創
出の運営母体の設立
準備及び調査費用で、
主に2名の人件費だ。

片山議員

調査費用は今まで
委託業者に、非常に
たくさん投入されて
きた。しかし、その
成果を活用する行政
システムが構築され
ていない。町職員に
そこを勉強していた
だきたい。

武市議員

地職住が、補助事
業で薬草の開発をす
ることだが、（株）
いききゅうも取り組
む。

主な討論

第3回定例会

一般会計補正予算

反対 明本議員

視察研修について
は反対。上勝バイオ
主体の視察だ。経営
の失敗を隠すものだ。
バイオの末期状況、
資本の2倍の借金が
あるのに延命策だ。

賛成 鹿島議員

バイオについて良
く勉強したい。

賛成 渡部議員

調査であり、バイ
オについて問題点が
うきぶりになること
もある。

平成25年度 一般会計補正予算（補正第2号）

追加

1億3,516万1千円

総額

27億7,816万1千円

主な内訳

- 道路新設交付金事業
剣山線2km舗装 5,560万円
- ゼロウェイスト推進計画策定事業
廃棄物調査・教育プログラムの調査 1,000万6千円
- 東部広域農道整備負担金 850万円
- コミュニティー助成事業
福川・傍示 だんじり用備品 410万円
- 県単農業振興事業補助金
旭中津の農道開設・JA雨よけハウス5棟 311万3千円
- 消防備品購入費 6分団 倉庫
及びプライベートルームの設置 280万円
- 新技術地域資源開発費
地職住推進機構による薬草研究 200万円

平成25年度 介護保険特別会計補正予算（補正第2号）

追加 256万1千円 総額 3億5,276万7千円

平成25年度 奨学資金特別会計補正予算（補正第1号）

追加 36万円 総額 276万1千円

平成25年度 後期高齢者医療事業特別会計補正予算（補正第1号）

追加 63万9千円 総額 4,129万2千円

平成25年度 福原財産区特別会計補正予算（補正第1号）

追加 300万円 総額 380万円



岩本文昭 議員

岩本

町長

町政に取り組む 基本的な考え方は

問 素直に現在の心境と、町政に取り組む町長としての決意を伺いたい。

答 花本町長 目まぐるしく時が過ぎ物事をゆっくり考える時間が無いのが素直な実感である。人口問題研究所が発表した2040年の上勝町の人口は推計84人である。27年間に毎年37人の減となっている。

しかしそうならない様に、次の時代の者について行く施策をあらゆる角度から考えて進める。

問 町政発展のために、一番重要と考えている事は何か、又努力して行きたい事は何か。

答 花本町長 過疎で一番恐ろしいのは、人材不足である。後継者育成、若者定住を第一と考えている。そのためには町民



有害獣防護ネットの点検（府殿）

問 本町を持続可能な最も美しい町にするために最重要と思われる課題は何か。

答 花本町長 美しい町として高い評価をいただいているのは、美しい自然や景観に加え、地域の活性化のために頑張っている町民の心意気だと思っています。

外からの評価と町民の実態にギャップが少しある。持続可能な町づくりには、人口の規模を確保する事、環境や景観を保全する施策、そのための健全財政が必要である。

基本条例を活用して集落再生をはかり、次世代に引き継いでいきたい。

問 今後の第3セクターの対応について

答 花本町長 3セクは町の外郭団体の一つとして町の関与、支援を受けながら地域に寄与してきた。しかし、経営悪化

が町の財政に深刻な影響を及ぼす可能性が問題視されている。経営検討委員会に専門的な立場で検討願っている。各社の情報収集、現地調査や市場の状況なども研究して方向性を見極めていきたい。

問 国・県からの予算獲得の方法、手段はどのように考えているか。

答 花本町長 本町のように自主財源の少ない自治体においては、国・県の直轄事業や補助事業を導入して有利な財源を確保し、町民の負担を少なくするのは当然の事である。

全職員がアンテナを張り精度の高い情報を収集して利用し関係部署に要望する。

上勝発の提言として国・県に積極的に発言していきたい。

新町長の決意を聞く

積極的に行政運営を進める

新町長の政策は

明本

政治姿勢と政策を問う

問 どのようにして住民の声を聞くのか。

答 花本町長 集落座談会を2年に1回は開く。

問 新町長の具体政策は。

答 花本町長 5つ挙げたい。
・持続可能な集落再生を補助する。

・後継者育成、若者定住を推進する。
・公営住宅建設。
・第3セクターの再生。
・森林林業の活性化を推進。

問 危機的状況のもくさんとバイオ、抜本解決策を求む。

答 花本町長 バイオの経営に携わったのは6月からまだ解らない。先進地を視察研修し模索

する。
もくさんは笠松氏が社長になり、住宅から他の経営に、あり方を検討する。

エネルギー自給の町を どうつくるか

問 再生可能なエネルギー開発の推進策は。

答 花本町長 補助金を出し、太陽光など推進している。

問 エネルギー自給の町達成のため、総合エネルギー公社を設立しパワーある発電所を作れ。

答 花本町長 大規模な再生エネルギーは採算が合わん、公社設立は困難だ。

高齢者慢性疾患の 治療費無料化を

問 後期高齢者が上勝診療所にかかったとき、無料化せよ。

答 桑原住民課長 病状悪化防止に効果があるが、費用の面で実施困難、年間178万円くらいかかる。

問 風疹予防ワクチンの無料接種についての考えは。

答 桑原住民課長 神山町が無料実施、保健師と相談する。

情報基盤整備 の今後は (TV・ネット)

問 IP電話機の補修無料化は。

答 花本町長 予備品は底をついている。電話機の修理は有料とする。

自然災害 防止計画は

問 大地震、豪雨災害に備える災害未然防止策は。市宇地区は最近、人家裏山の崩壊があった。

答 中原建設課長 瀬津・野尻線、傍上平、市宇地区で岩盤不安定をロープ固定、取り除き、吹き付け工事等をしている。
市宇地区の裏山崩壊は樹木伐採の影響で大崩落の心配はない。



豊かな水資源を活用しよう



明本恵一 議員



片山文昭 議員

問 風力発電計画の進捗状況は。

自然エネルギーの活用を

平成25年度環境影響評価準備書公開、平成28年度着工、平成30年度完成営業運転開始

答 桑原企画環境課長兼産業課長

平成25年度末に環境影響評価準備書作成公開、住民の意見を聞く。その後詳細設計。

平成28年度中着工。
平成30年度中の完成

ユーラスエナジーが計画している風力発電の進捗状況は

片山

企画環境課長
兼産業課長



武市 功 議員

武市

Uターン者に優遇施策を

町長

過疎債ソフト事業等で今後検討

問 高齢化で農地管理を筆頭に集落の荒廃は目前長期的展望に立った孫・子につなげる、退職組Uターン者へ、町独自の帰農給付金、住宅改造給付金制度等の創設をきっかけとしてUターンを進める施策を。

答 花本町長

農地の荒廃は広がっている。住宅もあり農地のあるUターン者施策は非常に有効な事と考える。若者向け補助制度はあるが、国費等での高齢者向けの補助制度はない、財源的に十分検討しないと難しい。過疎債のソフト事業、ふるさと創生夢基金の人的財育成等を踏まえ今後検討したい。



神明杉地線

問 家族が一緒に帰れる施策の必要性が。Uターン者の知恵を役立てていただく地域づくりの方向を。

答 花本町長

有効な施策である。財源等を考慮すると、青年就農給付金、ふるさと協力隊のような150万、200万といった支援は厳しい。どの程度できるか検討したい。

問 林道網を活用した集落間連絡道の具体策は。

答 花本町長

災害等で孤立する地域が予測される。巨大地震、台風で

道路網が寸断された場合のライフラインに林道網の迂回路が必要と考える。県、町営事業で林道整備を実施している、今年度予算で、神明杉地線林道が完成、福原字界終点で行き止まりとなることから、林業の振興を図ることも含め、林道杉地喰田線との接続について、事業採択申請のため、実施計画、測量設計を考えている。

問 その場合、地元負担金割合は。

答 花本町長

事業費の5%の負担をお願いすることとなる。

問 神明杉地線以外に、要望があれば、応えていただけるのか。

答 花本町長

林道の場合、間伐促進とか施策計画が義務付けられている。そのことにも地域で応えていただきながら、災害時の迂回路的観点から事業採択に積極的にかかりたい。

町全体の観光協会的組織の必要性は

情報発信を一元化することは重要

／桑原企画環境課長兼産業課長

問 各地域の団体によるイベント等がそれぞれに行われているが、横のつながりがなく効果的に開催できていない状況も。全体を網羅した組織の必要性がある。上勝まるごと美しい村観光圏として、地域の特性を生かした観光文化でのまちづくりを検討されたい。

答 桑原企画環境課長兼産業課長

町内ではいろいろな団体が活発に活動されている。観光関連団体が連携を図り、町の情報発信を一元化することは非常に重要。

月ヶ谷温泉を情報発信や受け入れの拠点として地域おこし協力隊により、企画から運営面も合わせ組織化に向けて検討している。

問 地域の生の声を吸い上げた形での組織づくりを進めるために、集落支援員と協力し、各集落再生プロジェクト事業と連携しそれぞれの地域でうまく活用できるよう展開を。

答 桑原企画環境課長兼産業課長

地域おこし協力隊については、施設団体を横断的に連携してゆくことを任務にして、集落支援員と連携、情報収集し、情報を共有して地域活性化に努めたい。

他に、地域通貨について、商工会と連携した商品券等とマッチングさせた活用等について質問。

問 未納者に対し、滞納整理機構に委託をして徴収を実施しているのか。

答 吉積税務課長

昨年は2件委託し約23万8千円徴収した。

調剤薬局が出来てからの上勝診療所の運営状況は

問 調剤薬局が出来るとその後は、どのような経営になっているのか。

答 桑原住民課長

平成22年度と平成24年度を比較すると、収益が約500万円増加した。

問 訪問看護を実施すると言っていたが、実施状況は。

答 桑原住民課長

平成23年度は6名。平成24年度は7名。平成25年度は6名の方に実施している。

問 残土処理場の計画を半分に変更をして、クリーンエネルギーの活用を図るべきと思うが。

答 花本町長

現在も公共事業の残土を受け入れている。現在地以外に受け入れできる場所が無い、残土処理場の完成後に検討するのが筋でないかと考えている。

問 福川地区にある町営の残土処理場に太陽光発電所を設置してはどうか。

答 桑原企画環境課長兼産業課長

水利権、事業認定等の権利取得が調っていないため営業発電には至っていない。

問 地職住が設置している、杉地谷川の小水力発電所の進捗状況は。

答 桑原企画環境課長兼産業課長

それで営業運転開始を見込んでいる。

地元管理の町道に助成金を支給しては

問 燃料、機械の消耗代として町費の助成をしては。

答 中原建設課長

今後名の代表者等から実情意見を聞き考えていきたい。

町税の徴収率はどうなっているか

問 固定資産税・町民税・軽自動車税の徴収率は。

答 吉積税務課長

平成24年度は、固定資産税99.6%、町民税98.9%、軽自動車税98.4%。



草が繁る町道



渡部 厚子 議員

渡 部

町 長

子宮頸癌ワクチン 予防効果なし

補助はする 判断は個人に任せる

問 子宮頸癌ワクチンによる被害が報道されているが、それでもワクチン費用を町は出し、すすめるのか。

答 桑原住民課長

ワクチンによるがんの予防効果は証明されていないが、厚労省の勧告どおり、積極的でない勧奨をする。費用負担もする。

問 ワクチンがいい、悪いの判断を町自身がせずに費用負担するのはおかしい。地方分権の精神は自ら判断することではないか。

答 花本町長 ワクチン等は国の判断に準じて

いくべきと思う。後は接種する人に判断をしてもらう。

町有林に薬草を

問 最近に購入した山林の管理は。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長

東戸越の山林は本年度予算化しているが、いまだ購入していない。月ヶ谷温泉上の山林は間伐が終了して、5年後に再び間伐の必要がある。



伐採林、作業道が草に埋もれている

問 月ヶ谷温泉上の山林に落葉樹や薬草を植えてほしい。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長

全体をするのは難しいが、具体的な提案を出してくれば検討する。

いっきゅう茶屋下の 林地は放ったらかし

問 200万円かけて作業道を作り、木を伐って放ったらかし。目につく。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長

周辺の8つの関係団体で協議をし、計画の提案をお願いした。福原名による支援も考えている。

問 先に協議してからするべきだったのでは。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長
森林組合に相談して行った。

問 ならば引き続き森林組合に相談しないと統一が取れないのでは。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長

8団体に森林組合も入っているが、町民の憩いの場として皆の意見を入れて管理してゆきたい。

持続可能な 美しいまち 条例でどう変る

問 全町民の自治組織加入が義務づけられたが、名費の補助はあるのか。またイターンの移住援助は総代が中心にやるのか。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長

加入を義務づけているものでもないし、総代がしなければいけないものでもない。地域に自主的にやってもらうということだ。

予定のウィンド ファーム、前町 長との見解の違 いは

問 今までと何も変わらないということか。

答 桑原企画環境課長 兼産業課長

色々ある支援制度の整理をするために施行規則を作った平成26年度から運用するつもりだ。

問 前町長は、大河原の風力発電所の発電実績を公表しない限り、また、固定資産税以上の利益がなければ風車の建設は容認し難いと言っていたが、新町長はどうか。

答 花本町長

現存の15基の風車で著しい害があったことは聞いてない。東簡水の真上に設置される風車については考えないといけないが、質問の2点については絶対必要なこととは考えていない。

生実字上野地区の地滑り 対策の現状とこれからの 計画は

松 下

建設課長

県に調査を依頼、最近
特に変異は見られない

問 この地域には民家とトポス彩等もあり、豪雨時民家の軒先まで出水する。自主避難等勧告する基準はあるのか。

答 中原建設課長

民家の近くには小谷と湧水もあり、水路を挟んで水はけが悪い。石積み

もあり、崩壊すれば民家に影響がある。自主避難については、近くの集会所を利用する等、台風時の情報に基づき対応をお願いしたい。

問 県の調査ボーリングは平成13年頃より多数実施されている。工事の方

法、考え方について前任者からの引継ぎはどうなっているのか。

答 中原建設課長

湧水の利用者があり、工事によっては不具合が出ることを心配している。以前より現地について私も確認している。

問 水源等の解決をすれば工事が出来ると解釈してもよいのか。

答 中原建設課長

県当局とも水の対策が出来れば水路の拡張整備等も進める協議が出来る。

第3セクターの決算 と考え方について

問 町長の第3セクターについての経営と改善について伺う。

答 花本町長

上勝バ イオをこの度見た。場内の清掃も行き届き、各部内共々によく働いている。



大杉荘より上野地区を望む

問 社員のやりがいについて食品のISOへの挑戦や給料についての考慮は。

答 花本町長

給料の引上げは今難しい。社員の皆さんにご辛抱頂いて、立直しに集中する。

大震災の対策は

問 南海地震の予測情報 が身近な課題となっており、近隣市町村との協力について伺う。

答 中原建設課長

予想は大変難しい。自主防災組織を通じてお気づきの点があれば申し出て頂きたい。

問 南海地震が起きれば、那賀、勝浦で20名の死者予測が出ているが、町の想定は。又、役場と消防との連携は。

答 横山総務課長

今年、防災計画の見直し中で、新しい計画ができるのを待ってほしい。役場と消防については双方情報を共有し、自主防災組織も参加頂き、訓練を重ねていく。

上勝町教育委員会 5 名、
総務常任委員会 4 名で学
校訪問を行った。



もうすぐおやつの時間（彩保育園）



学習補助教諭もついている（中学校）

中学校

ハイテクを駆使して面白く授業が進められている。
生徒同士のコミュニケーション能力を強化すること、家庭学習の習慣化を今年度の目標としている。
体育館までの通路、及び入口の雨対策が望まれる。燕が 2 階ベランダに巣を作るので困っている。

学校訪問

平成 25 年 7 月 4 日

学童保育 あすなろ

避難路が確保された。
せまい部屋で全員が宿題をしていた。勉強に集中できる環境ではない。
台所が非常にせまく、コップ洗いも容易でない。台所拡張が早急に必要。長期的には移転、独立が望ましい。



宿題も遊びもこの部屋（あすなろ）

給食センター

温かいごはんを食べられるよう、クラスごとに電気炊飯器を配るため、こわれやすく、12 台のうち 7 台を新しくした。炊飯時に蒸気がセンターにこもるので、改善が必要である。
地元の米が手に入りにくくなり、現在は県産米を使っている。

彩保育園

やさしい保育士に囲まれ、子供達はニコニコ。
新しい遊具を設置予定である。
昨年閉園後の迎えが増えたため、超過料を徴収するようにした。
紙おしめの処理を業者に委託するようになった。

小学校

朝に読書時間を 15 分設け、結果、本の貸出も増えている。
支援学級が 2 室あり、生徒の能力に応じた授業が行なわれている。
来年は 3・4 学年は複式学級となってしまうが、それは避けたいとのことだ。

中国で感染者が多く出た 鳥インフルエンザ対策は

鹿島

国立感染症研究所で、ワクチンの製造準備を進めている

住民課長

答 桑原住民課長
中国で発生した鳥インフルエンザ A(H7N9) は、一般的に鳥類がかかる病気で、人が感染することはあるが、人から人へ持続的に感染した事例は確認されていない。現在、国立感染症研究所でワクチンの製造準備を進めている。また、これまでにない重症な感染症が広く国内に拡大した時の備えとして、新型インフルエンザ等対策特別措置法が施行された。

問 中国で感染者 140 人余り、死者 39 人も出た。鳥インフルエンザウィルスの国内での対策は。



鹿島 國男 議員

今年の人・農地プランは

問 人・農地プランの青年就農給付金制度は。また、地域おこし協力隊とは。

答 桑原企画環境課長 兼 産業課長

昨年は 8 名認定した。今年は、4 名の問い合わせがあり、2 名認定した。随時募集しているこの制度は、年間 150 万円ずつ 5



葉わさびを作る青年就農者

年間給付を受けることができる。詳しくは、役場へ問合せほしい。
地域おこし協力隊とは、総務省の事業で、都市人材が 3 年間、過疎地域等の活性化のために活動することである。
町としては、将来町内に定住してほしいと思っている。

町民憲章と まちづくり条例は

問 上勝町美しいまちづくり基本条例と町民憲章の違いは。

答 花本町長

町民憲章は、町民自身が誇りを心に持つものであり、まちづくり基本条例は、人と人とのきずなを大切に、自治組織を基盤とし、町民が主体、主役のまちづくりを推進することが重要であり、良好な環境及び景観の保全、美しい自然との共生、地域の活性化と雇用の確保、情報の発信と交流の拡大、ふるさとに誇りを持つ人づくりなどのために支援していくものである。

児童手当は

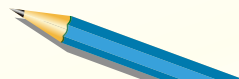
問 児童手当は今どうなっているか。

答 桑原住民課長

児童手当の支給額は、3 歳未満までは、1 人当月額 1 万 5 千円、3 歳以上小学校修了前までは 1 万円、そのうち第 3 子以降は 1 万 5 千円、中学生は一律 1 万円、所得制限の限度額以上の場合、特別給付で月額 5 千円を支給している制度である。

ほかに、起業支援型地域雇用創造事業とインターンターナー者への支援制度についても質問した。

まちのようす



れんこん葉出荷（福原）



棚田の田植え（生実）



棚田の見守隊（生実）



棚田の儀式 三倍様（生実）



管理された美しい棚田（市宇）



薬草サミット（福原）

編集後記

田植えの終わった棚田の畦道で一休みしている老夫婦に出会う。「キゲンええで」「えつとぶりじゃな」「会話がはずむ中、ふと思う、この人達が農業を出来なくなったらどうなるのか。高齢化が言われて久しいが、10年後の上勝の産業はどうなっているのか考えてしまう。さりとて、よい知恵も出ぬ我が身のおろかさを悔むばかりである。町の体制も変り、議員の力にも限界はあるが、我々も力を合せ、何としても持続可能な町として残っていかなければならない、そんな思いを強くする。

（山本）

